

◆授業設計のポイント◆

- ・〔共通事項〕を基にした授業づくりの工夫
- ・思考力・判断力・表現力を育成させるための指導法と評価の工夫

音楽科学習指導案

学 級 2年2組 (男子19名 女子17名 計36名)

場 所 第1音楽室 (1年校舎4階)

授業者 教 諭 岩 切 理 恵 子

1 題 材 フーガのおもしろさを味わおう〔共通事項〕旋律、音の重なり、形式、構成、音色

教 材 鑑賞「フーガト短調」 J. S. バッハ 作曲
「トッカータ、アダージョとフーガ 八長調」 J. S. バッハ 作曲

2 題材について

(1) 題 材 観

本題材は、学習指導要領「第2学年及び第3学年B鑑賞(1)ア音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。」に関する内容である。

本教材「フーガト短調」は、バロック時代を代表する作曲家バッハの作品で、荘厳な雰囲気をもつ名曲として知られている。

多声音楽の一つであるフーガの技法による作品で、混声4部合唱と同じく、ソプラノ・アルト・テナー・バスからなる各声部の提示と応答が繰り返して表現される。本教材は、この技法がパイプオルガンの多彩な音色や幅広い音域とあいまって効果的に表現されている。主題は長い生徒が親しみやすい旋律となっている。また、比較的演奏時間も短く、集中して鑑賞するのに適している。

フーガは対位法による音楽形式で、一つの主題を複数の声部が模倣しながら次々に追いかけて演奏する様式をもつ曲を指す。カノンもフーガに似た「追いかける」様式をもつが、カノンは旋律を厳密に模倣するのに対し、フーガは主題が転調しながら繰り返されたり、主題以外の旋律を用いることを許されているため、フーガの方がカノンより複雑な曲を作ることができるという点で異なる。

カノンの形式と比較したり関連付けたりしながら、多声音楽の代表的な形式である「フーガ」の形式や構成を理解させ、それによって生まれる豊かな響きや表現を感じ取らせたい。

(2) 生徒の実態 (アンケート対象：2年2組 男子19名 女子17名 計36名 回答)

今回の学習に取り組むにあたって、事前調査を実施した。

1 音楽の授業で一番好きな活動はどれですか。

鑑賞 (16人) 歌唱 (13人) 器楽 (7人) 創作 (0人)

2 楽曲を聴く時、どのようなことに気を付けて聴きますか。(複数回答可)

リズム (29人) 強弱 (23人) 楽器の種類や音 (21人) 音色 (20人)

響き (20人) 速度 (20人) 歌詞 (17人) 音程 (12人) 拍子 (12人)

作詞者・作曲者の思い (9人) フレーズ (7人) 形式・構成 (5人) 諸記号 (2人)

その他 (息つき、発音) (1人)

アンケートの結果から、鑑賞活動を好む生徒が多いことがわかる。鑑賞する際に、リズムや強弱、音色、速度など、音楽を形づくっている要素に気を付けて聴くことができている生徒が多いが、要素同士のかかわり方及び音楽全体の成り立ちなど、音楽の形式や構成に着目して聴いている生徒は少ない。楽曲を単に聴かせるだけでなく、楽譜を用いて聴かせたり、個人での活動だけでなくグループでの話し合い活動をさせたりすることで、音楽の形式や構成を理解させ、豊かな音楽表現を聴き取れるようにさせたい。

(3) 指 導 観

反復される主題が単なる模倣ではなく、転調したり変化したりすることにより曲想が変わり、曲が展開していくことを知覚・感受させたい。その上で、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、それらの働きが生み出す特徴や豊かな表現など、楽曲のよさや美しさをより自分のものとして味わわせたい。

3 題材の目標

- (1) パイプオルガンの構造や響きに関心をもって鑑賞することができる。
- (2) 旋律、音の重なり、形式、構成、音色を知覚し、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気を感じながら鑑賞することができる。
- (3) 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって説明するなどの活動を通して、音楽のよさや美しさを味わうことができる。

4 題材における評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
○ 主題に着目して、多声音楽の特徴に関心をもち、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。	○ 旋律、音の重なり、形式、構成、音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 ○ 多声音楽の各声部の動きを知覚し、その働きによる特質や雰囲気を感じ、構造と曲想のかかわりを理解し、根拠をもって言葉で説明して、楽曲全体を味わって聴いている。

5 題材の指導計画（全3時間）

時	主な学習活動	単位時間における評価規準	
		ア 音楽への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
1	「カノン2」をアルトリコーダーで演奏し、輪奏の形式に慣れる。 「フーガト短調」を鑑賞し、パイプオルガンの構造を理解し、音色に親しむ。 - 音楽の特徴を、その背景となる文化や歴史などと関連付けて理解する。 - 主題が繰り返し演奏されることに気付く。	- カノンとフーガを比べながら、主題に着目して、多声音楽の特徴に関心をもち、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。 - パイプオルガンの構造を理解し、豊かな響きを感じ取ろうとしている。	
2 (本時)	「フーガト短調」を鑑賞し、主題が繰り返されていることを再確認するとともに、旋律や音の重なり方の特徴を聴き取る。 - 音源や楽譜を用いながら、グループで鑑賞し、主題の変化や転調に気付く。 - 多声音楽の形式や構成を理解し、それらが生み出す多彩な表現を聴き取る。		- 旋律や音の重なりなどの多声音楽の特徴をとらえ、豊かな響きや多彩な表現を感じ取っている。 - 主題の変化や転調を理解して聴き、表現の特徴を感じ取っている。 - 多声音楽の各声部の動きを知覚し、その働きによる特質や雰囲気を感じ、感じ取ったことを自分の言葉で説明するなどして、楽曲全体を味わって聴いている。
3	- 参考曲として、同じくJ.S. バッハ作曲の「トッカータ、アダージョとフーガ ハ長調」を鑑賞し、フーガの形式を再確認する。 - 学習のまとめとして、「フーガト短調」を鑑賞し、紹介文を作成する。		- 同じフーガの技法の他の楽曲を聴き、形式の特徴を感じ取っている。 - 知覚・感受しながら、「フーガト短調」の音楽を形づくっている要素や形式、構成とのかかわりを感じ取って、自分の言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

6 本時の実際 (2/3)

(1) 教材 フーガ短調 (J. S. バッハ作曲)

(2) 目標

ア 旋律、音の重なり、形式、構成、音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取ることができる。

イ 多声音楽の各声部の動きを知覚し、その働きによる特質や雰囲気を感じ、構造と曲想のかかわりを理解し、根拠をもって言葉で説明して、楽曲全体を味わって聴くことができる。

(3) 授業設計の工夫

ア 「共通事項」を基にした授業づくりの工夫 **研究の視点1**

評価規準【鑑賞の能力】		
旋律、音の重なり、形式、構成、音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取っている。		
判断の対象		
ステップシートへの書き込み、楽譜への書き込み		
尺度	判断基準	判断基準に基づいた指導
B	主題に気付き、旋律や音の重なりについて感じたことや気付いたことを書いているか。 【予想される生徒の表現例】 「雰囲気や印象に関すること」 ・ 悲しい、暗い感じの旋律。 ・ 重々しい感じの音に聴こえる。 ・ 厳かな雰囲気。 「要素に関すること」 ・ 旋律が少しずつずれて追われている感じ。 ・ 同じような旋律がいろいろな音や高さで出てくる。 ・ 音がたくさん重なっている。	【C状況の生徒への手立て】 鑑賞の視点である、「雰囲気や印象に関すること」と「要素に関すること」に分けて書けるように助言を行う。
A	(Bに加えて) 曲の構成についてわかったことを書いているか。 【予想される生徒の表現例】 ・ 複数の声部があって、主題をそれぞれがいろいろな音や高さで繰り返す。 ・ 主題以外の旋律も使われている。	【B状況の生徒への手立て】 音源や楽譜の両面からわかったフーガの特徴を、音楽の要素を使って説明できるよう助言を行う。

イ 思考力・判断力・表現力を育成させるための指導法と評価の工夫 **研究の視点3**

評価規準【鑑賞の能力】		
多声音楽の各声部の動きを知覚し、その働きによる特質や雰囲気を感じ、構造と曲想のかかわりを理解し、根拠をもって言葉で説明して、楽曲全体を味わって聴いている。		
判断の対象		
ステップシートへの書き込み、楽譜への書き込み		
尺度	判断基準	判断基準に基づいた指導
B	音源や楽譜の両面からわかったこと、フーガの特徴(形式や構成)について説明しているか。 【予想される生徒の表現例】 ・ 主題がだんだん低くなって現れるから、悲しい感じに聞こえる。 ・ 高い音から低い音まで使っているから、重々しい感じがする。 ・ 同じ旋律が何回も繰り返されているから、追いかけているような感じに聞こえる。	【C状況の生徒への手立て】 曲を聴いて感じたことを、理由を含めて説明できるように促す。

A	(Bに加えて) 「感じ取ったこと」を要素を用いて説明しているか。 【予想される生徒の表現例】 ・ 暗い調子で主題が繰り返されているから、悲しい感じに聞こえる。 ・ 主題が高さを変えて何回も繰り返されているから、追いかけているような感じに聞こえる。 ・ 暗い調子だけでなく明るい調子の部分もあるから、曲の変化が感じられる。 ・ 主題以外の旋律も使われているから、音が重なり広がっていくように聞こえる。	【B状況の生徒への手立て】 要素を的確に活用して自分の考えをまとめられるよう板書カードなどでモデルを示す。
---	---	--

(4) 展 開

過程	時間経過	主な学習活動	○指導上の留意点 ◎評価 ※授業設計の工夫
導入	4分 一斉 2分 一斉	1 「カノン2」をアルトリコーダーで輪奏し、カノンの形式を確認するとともに、曲想を味わう。 2 本時の学習目標を確認する。 フーガとはどんな音楽なのだろうか。	○ 前時の学習内容を振り返り、カノンの形式を確認させる。
展開	8分 個人 15分 グループ 13分 グループ 一斉	3 主題が繰り返されていることを再確認するとともに、旋律や音の重なり方の特徴を聴き取る。 4 グループ活動をし、「旋律」「音の重なり」「形式」「構成」「音色」で感じたことや気付いたこと、わかったことを出し合う。 5 グループ活動で話し合っまとめた内容を発表する。	○ 前時に用いた楽譜を用い、主題が繰り返されていることを確認させ、その他に作曲者が工夫したことがないか考えながら聴かせる。 ○ 音楽の要素を用いながら、自分の言葉で表現させる。 ※ 主題部分をICT機器で提示するとともに、前時に楽譜の主題部分に引かせたラインに着目して聴かせる。 ※ 音楽を形づくっている要素のうち、「旋律」「音の重なり」「形式」「構成」「音色」をステップシートに記載するとともに、黒板にカードで提示しておく。 ◎ 調性や旋律が変化していることや、旋律が絡み合って発展していくフーガの構造を理解しながら聴いている。 ○ グループでまとめた内容を発表し合い、新たに気付いたことを参考にしまとめさせる。 ※ グループ活動での鑑賞や話し合いで気付いたこと、わかったことを要素を用いてまとめて発表させる。 ◎ 構造と曲想のかかわりを理解して、根拠をもって言葉で説明できる。
終末	7分 個人 1分 一斉	6 フーガについてまとめる。 フーガとは、 ・ 単に主題が繰り返されるのではなく、曲の途中で変化したり転調したりする。 ・ 主題を一つの声部ではなく、複数の声部で次々に追いかけていく。 ・ 主題が次々と絡み合うようにして展開していく。 上記のような技法で作られた音楽 7 次時の予告を聞く。	○ 音楽の要素を用いながら、自分の言葉で表現させる。 ◎ 多声音楽の各声部の動きを知覚し、その働きによる特質や雰囲気を感じ、構造と曲想のかかわりを理解し、根拠をもって自分の言葉で感じ取ったことをまとめることができる。 ○ 生徒の活動や変容を認め、次時の紹介文作成への意欲につなげる。